

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教授	准教 授	講師	助教	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
保健医療学部 作業療法学科	5人	1人	2人	2人	10人	6人	8人	1人	32人	12.9人	
課程	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
計	5人	1人	2人	2人	10人	6人	8人	1人	32人	—	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている	3
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である	2
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
☐	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
☐	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
☐	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基礎	大学入門セミナー	15	東家一雄・谷万喜子・中森崇	教授・教授・助教（全て専任）
		科学の基礎	15	井本泰彦・山崎尚	全て非常勤講師
		生命のしくみ	15	山崎尚	非常勤講師
		生命の化学	15	岩崎秀夫	非常勤講師
		統計学の基礎	15	戸村多郎	教授（兼任）
		物質と自然のしくみ	15	中村正信	非常勤講師
		情報科学Ⅰ	8	櫻井理紗・岸本和昌	全て非常勤講師
		情報科学Ⅱ	8	櫻井理紗・岸本和昌	全て非常勤講師
	人間と生活 社会の理解	生命倫理	15	伊東秀文・王財源・西理宏・近藤哲哉・木村研一・文野住文・鍵弥朋子・備前宏紀	学長・教授(兼任)・教授(兼任)・教授(兼任)・准教授(兼任)・講師(兼任)・講師(専任)
		日本国憲法（法の基礎知識）	15	池田裕明	非常勤講師
		心理学	15	狩野真理	講師（兼任）
		スポーツと健康	15	相澤慎太	講師（兼任）
		生涯スポーツⅠ	15	相澤慎太	講師（兼任）
		生涯スポーツⅡ	15	相澤慎太	講師（兼任）
		社会学	15	木村弘之	非常勤講師
		社会福祉論	15	駒井博志	非常勤講師
		教育学	15	北山敏和	非常勤講師
		英語表現法Ⅰ	15	吉田仁志	教授（兼任）
		英語表現法Ⅱ	15	吉田仁志	教授（兼任）
	人間と生活 社会の理解	英語表現法Ⅲ	15	吉田仁志	教授（兼任）
		英語表現法Ⅳ	15	吉田仁志	教授（兼任）
		コミュニケーション学	15	狩野真理	講師（兼任）
		手話	15	滝元悦子	非常勤講師
	人体の構造と機能及び心 身の発達	人体の構造Ⅰ	15	東家一雄	教授（専任）
		人体の構造Ⅱ	15	東家一雄	教授（専任）
		人体の構造演習	15	東家一雄・備前宏紀	教授・講師（全て専任）
		人体の機能Ⅰ	15	大島稔	教授（兼任）
		人体の機能Ⅱ	15	大島稔	教授（兼任）
		人体の機能演習	15	大島稔・榎葉均	教授・教授（全て兼任）
		基礎運動学Ⅰ	15	山田隆人	准教授（専任）
		基礎運動学Ⅱ	15	吉田直樹	教授（専任）
		基礎運動学演習	15	備前宏紀・中森崇	講師・助教（全て専任）
		人間発達学	15	大蔵太郎	教授（専任）
		医学概論	15	武田時昌	非常勤講師
		衛生・公衆衛生学Ⅰ	15	相羽洋子	非常勤講師
		衛生・公衆衛生学Ⅱ	15	松本健治	非常勤講師

専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病因・病態学Ⅰ	15	伊藤俊治	教授（兼任）
		病因・病態学Ⅱ	15	伊藤俊治・鍵弥朋子	教授・講師（全て兼任）
		臨床疾患学（内科）	15	河本修	准教授（兼任）
		臨床疾患学（外科）	15	喜馬通博	非常勤講師
		整形外科学	15	吉田隆紀・中塚映政	教授（兼任）・非常勤講師
		神経内科学	15	若山育郎・河本修	非常勤講師・准教授（兼任）
		臨床心理学概論	15	狩野真理	講師（兼任）
		精神医学	15	郭哲次	教授（専任）
		画像解析学概論	8	河本修	准教授（兼任）
		加齢医学	15	河本純子	教授（兼任）
		薬理学の基礎	8	深澤洋滋	教授（兼任）
		障がいとスポーツ	15	中尾哲也	准教授（兼任）
		免疫学	15	青野由紀	非常勤講師
		栄養学の基礎	8	高田かず	非常勤講師
		臨床生理学	8	文野佳文	准教授（兼任）
		医療統計	15	山本博司・井尻朋人	全て非常勤講師
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	岩井和子	非常勤講師
		保健医療福祉概論	15	岩井和子	非常勤講師
専門	基礎作業療法学	作業療法学概論	15	山田隆人・大歳太郎	准教授・教授（全て専任）
		作業療法理論	15	稲本尊・大歳太郎	助教・教授（全て専任）
		基礎作業学	23	中森崇・山田隆人	助教・准教授（全て専任）
		日常生活活動学概論	8	山田隆人	准教授（専任）
		精神疾患とその障害	8	巽絵理	教授（専任）
		小児期の疾患とその障害	8	竹田洋子	非常勤講師
		動作解析学	15	吉田直樹・鈴木俊明	非常勤講師・教授（兼任）
		作業療法安全管理学	15	大歳太郎・備前宏樹・稲本尊・中森崇	教授・講師・助教・助教（全て専任）
		作業療法管理学	15	巽絵理・大歳太郎・山田隆人・稲本尊・中森崇	教授・教授・准教授・助教・助教（全て専任）
		作業療法総合ゼミ	15	大歳太郎・他	教授・他（全て専任）
	作業療法評価学	作業療法評価学総論	15	山田隆人・中森崇	准教授・助教（全て専任）
		身体障害作業療法評価学	15	備前宏紀・山田隆人	講師・准教授（全て専任）
		精神障害作業療法評価学	15	巽絵理	教授（専任）
		発達障害作業療法評価学	15	大歳太郎	教授（専任）
		老年期障害作業療法評価学	15	稲本尊・吉田直樹	助教（専任）・非常勤講師
		日常生活活動評価学	15	山田隆人	准教授（専任）
		高次脳機能障害評価学	15	中森崇・山田隆人	助教・准教授（全て専任）
		研究法入門	15	吉田直樹	教授（専任）
		作業科学概論	15	稲本尊・大歳太郎	助教・教授（全て専任）
		身体障害作業療法治療学	15	備前宏紀・山田隆人	講師・准教授（全て専任）
	作業療法治療学	身体障害作業療法治療学演習	15	備前宏紀・山田隆人	講師・准教授（全て専任）
		精神障害作業療法治療学	15	巽絵理	教授（専任）
		精神障害作業療法治療学演習	15	巽絵理	教授（専任）
		発達障害作業療法治療学	15	大歳太郎	教授（専任）
		発達障害作業療法治療学演習	15	大歳太郎	教授（専任）
		老年期障害作業療法治療学	15	稲本尊・吉田直樹	助教・教授（全て専任）
		老年期障害作業療法治療学演習	15	稲本尊・吉田直樹	助教（専任）・非常勤講師
		日常生活活動作業療法治療学	15	山田隆人・吉田直樹	准教授・教授（全て専任）
		日常生活活動作業療法治療学演習	15	山田隆人・吉田直樹	准教授（専任）・非常勤講師
		高次脳機能障害作業療法治療学	15	中森崇・大歳太郎	助教・教授（全て専任）
		高次脳機能障害作業療法治療学演習	15	中森崇・山田隆人	助教・准教授（全て専任）
		内部障害作業療法治療学	8	中森崇	助教（専任）
		義肢・装具学	8	備前宏紀	講師（専任）

専門	作業療法治療学	リハビリテーション概論支援機器概論	8	吉田直樹	教授（専任）
		就学・就労支援概論	8	大歳太郎・巽絵理	教授・教授（全て専任）
		セラピューティック・レクリエーション概論	8	備前宏紀・山田隆人	講師・准教授（専任）
		国際リハビリテーション学	8	大歳太郎・谷埜予士次・吉田隆紀・文野住文	教授（専任）・教授（兼任）・教授（兼任）・准教授（兼任）
		専門職連携概論	8	備前宏紀・稲本尊	講師・助教（全て専任）
		芸術療法概論	8	大歳太郎・岩井和子	教授（専任）・非常勤講師
		代替療法概論	8	大歳太郎	教授（専任）
		英文献講読	15	大歳太郎	教授（専任）
		東洋医学概論	8	中吉隆之	講師（兼任）
		キャリアサポートとワークライフバランス論	8	大歳太郎	教授（専任）
		認知行動療法	8	中井靖	非常勤講師
		研究法応用	15	大歳太郎・他	教授・他（全て専任）
	地域作業療法学	地域作業療法学総論	15	稲本尊・山田隆人	助教・准教授（全て専任）
		地域作業療法学各論	15	稲本尊・山田隆人	助教・准教授（全て専任）
	臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学）	25	中森崇・他	助教・他（全て専任）
		地域臨床実習（見学）	25	稲本尊・他	助教・他（全て専任）
		臨床実習Ⅱ（プレ評価）	25	山田隆人・他	准教授・他（全て専任）
		臨床実習Ⅲ（評価）	100	山田隆人・他	准教授・他（全て専任）
		臨床実習Ⅳ（総合）	200	備前宏紀・他	講師・他（全て専任）
		臨床実習Ⅴ（総合）	200	備前宏紀・他	講師・他（全て専任）
		臨床実習総合セミナー	8	山田隆人・他	准教授・他（全て専任）

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
☐	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
☐	シラバスの記載が十分ではない。	2
☐	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
☐	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
☐	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
☐	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
☐	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
☐	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
☐	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ（見学） （作業療法実践場面の見学）	1年次後期	作業療法学概論	1年次前期
		リハビリテーション概論	1年次前期
		作業療法安全管理学	1年次後期
		基礎作業学	1年次後期
		保健医療福祉概論	1年次後期
地域臨床実習（見学） （作業療法士による訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションの実践場面の見学）	2年次前期	リハビリテーション概論	1年次前期
		保健医療福祉概論	1年次後期
		地域作業療法学総論	3年次前期
		地域作業療法学各論	3年次後期
		専門職連携概論	3年次後期
臨床実習Ⅱ（プレ評価） 臨床実習Ⅲ（評価） （情報収集、面接、観察、検査/測定、問題点の列挙（統合と解釈）、目標設定までの評価過程の理解と実践）	3年次後期	作業療法評価学総論	2年次前期
		身体障害作業療法評価学	2年次後期
		精神障害作業療法評価学	2年次後期
		発達障害作業療法評価学	2年次後期
		老年期障害作業療法評価学	2年次後期
		高次脳機能障害作業療法評価学	2年次後期
		日常生活活動作業療法評価学	2年次後期
		動作解析学	2年次後期
		身体障害作業療法治療学	3年次前期

臨床実習Ⅳ（総合） 臨床実習Ⅴ（総合） 臨床実習総合セミナー（OSCE） （評価過程の実践及び評価結果に基づく目標設定、治療プログラム立案、治療、効果判定の実践、及び他職種連携、実習施設の機能（役割）の理解と管理業務の体験を含む総合的な実習）	4年次前期	精神障害作業療法治療学	3年次前期
		発達障害作業療法治療学	3年次前期
		老年期障害作業療法治療学	3年次前期
		高次脳機能障害作業療法治療学	3年次前期
		日常生活活動作業療法治療学	3年次前期
		内部障害作業療法治療学	3年次前期
		リハビリテーション支援機器概論	3年次前期
		就学・就労支援概論	3年次前期
		身体障害作業療法治療学演習	3年次後期
		精神障害作業療法治療学演習	3年次後期
		発達障害作業療法治療学演習	3年次後期
		老年期障害作業療法治療学演習	3年次後期
		高次脳機能障害作業療法治療学演習	3年次後期
		日常生活活動作業療法治療学演習	3年次後期
		義肢・装具学	3年次後期
		セラピューティック・レクリエーション概論	3年次後期
		専門職連携概論	3年次後期
		作業療法管理学	3年次後期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
☐	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
☐	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
☐	適正な臨床実習指導者の下で実習がおおむね実施されている。	3
☐	適正な臨床実習指導者の下で実習が十分に実施されていない。	2
☐	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分でない。	2
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☒	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
☐	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能していない。	2
☐	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	大歳太郎（伊東秀文）
組織の開催頻度	令和7(2025)年度3回開催
組織の取り組み内容	本学の教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動及び管理運営を自ら点検し、評価する。具体的には、各種委員会や学内各部署が推進する中期計画及びアクションプランの進捗状況に関する中間及び期末における点検・評価を実施している。 また、本学の専任教員は当該年度における自己の教育研究活動を「教育」「研究」「大学運営」「社会貢献」「診療」の5領域に分けて毎年度末に点検・評価し、その状況を「教員活動に係る自己評価調査票」に入力して次年度の改善につなげる取り組みを行っている。

自己点検・評価結果の公表	自己点検・評価活動の内容は、毎年度、自己評価書を自主的に作成して大学ホームページで公表している。令和8(2026)年度には令和7(2025)年度の自己点検・評価活動を対象とする自己評価書を作成して公表している。なお、各教員の研究業績に関しては、大学ホームページの教員紹介欄にて公表している。
--------------	---

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	作業療法学科会議・教務推進委員会
	委員構成等	(作業療法学科会議) 教授及び准教授、教務課職員、その他学科長が必要と求めた者 (教務推進委員会) 学部長・教務部長・学科長、総合教育科目担当教員2名以上、大学教学部長、教務課長、その他学長が必要と認めた者
	改善の仕組みの実際	シラバス作成マニュアルを全教員へ配布し、それに基づいて各教員が記載内容の改善に取り組むよう努めている。また、各教員が作成したシラバスを学科長及び副学科長が点検し、必要に応じて改善(修正)を行っている。更に最終的な確認として学部長、教務部長、教務課が点検した上で学長の点検を受けている。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価委員会は、本学の教育研究活動及び管理運営を自ら点検・評価し、その結果に基づき次年度の教育研究活動を実施している。公益財団法人日本高等教育評価機構及び一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価を受けており、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構による教育評価については、令和3(2021)年度に受審した評価結果をホームページで公開している。さらに令和8(2026)年度にも受審予定である。第三者評価でいただいたご意見は、学科会議で検討し改善に努める。
--